

今昔物語

市制 70 周年を迎えた行橋市。山や海に囲まれ、京築地域の中核として人が行き交い、歴史と文化が育まれてきました。昔懐かしい行橋の風景や町なみの、「今」と「昔」をご覧ください。

～ Vol.028 新田原カトリック教会

12 月を迎えると、街中は一気にクリスマスムードとなり、今年も 12 月 12 日に行橋駅でイルミネーションの点灯式が行われます。

クリスマス（12 月 25 日）はイエス・キリストの降誕を記念する祭で、日本で一般的になったのは、明治時代の終わり（1900 頃）に高級スーパーの明治屋がクリスマス向け商品を販売したことがきっかけとなり、大正 15 年（1926）12 月 25 日に大正天皇が崩御、昭和 2 年（1927）から 22 年（1947）まで 21 年間 12 月 25 日が「大正天皇祭」として祭日であったため、クリスマスの習慣が広く普及、定着したとされます。

今回は市内でもキリスト教徒が多い、新田原のカトリック教会の今昔をみていきます。

1933 年 / 昭和 8 年

新田原カトリック教会の聖堂完成

行橋市の東部、新田原にキリスト教徒が多いのは、昭和元年（1926）に隣接する祓郷村皆見（現・みやこ町皆見）に北海道のトラピスト修道院の九州分院が開設。長崎県の五島列島から多くの修道者が移住してきたことによります。トラピストとは、キリスト教の宗派の 1 つであるカトリックの修道会の俗称で、厳格な規律のもと、牧場、果樹園、菜園で農作業を行いながら共同生活を営みました。

こうした評判が多くの子キリスト教徒の移住を呼び、昭和 5 年（1930）には東徳永に新たな教会が設立。3 年後には信者が礼拝する聖堂が落成します。



▲聖堂は、長崎県のカトリック教会堂建築を多く手掛けた鉄川与助による建築。

2024 年 / 令和 6 年

新田原カトリック教会

その後も教徒が増えたため、新聖堂を建設することになり、昭和 50 年（1975）に広さ 639㎡の新聖堂が完成します。昭和 8 年に完成した旧聖堂は惜しまれながら解体され、平成 10 年（1998）、信者たちが交流するテレジア館に生まれ変わりました。

一方、昭和元年に開設したトラピスト修道院は、航空自衛隊築城基地の騒音等から逃れるため、昭和 39 年（1964）に佐賀県伊万里市に移設。跡地は現在築城基地の施設となっています。



▲谷口尚志神父は「現在、土曜日夜と日曜日朝に行うミサには、約 200 人の信者の方が礼拝している」と述べる。

新田原カトリック教会は、緑と田園風景、果樹園に囲まれた、静寂なたたずまいの中、100 年前と変わらない時を刻んでいます。

クリスマスは、気の合う仲間パーティーをしたり、家族でチキンやケーキを囲んだり、あるいは恋人とイルミネーションを見に出かけたり…。チャペルの礼拝堂で祈りを奉じ、神への賛歌を捧げて過ごすのも良いのではないのでしょうか。